

## 級長が毎日話をするのはなぜ？

朝の会にお邪魔した時に、級長が話をしているときがあります。その度に私は「なぜ級長が毎日話をするのだろう」と思っています。

実は、今年の一月二十日のメッセージにも「『級長の話』に思う」と題して書きました。私の中では、朝の会の級長の話がマンネリ化しているような気がしています。その日の授業の予定や計画されている行事を見て、「くしましろう」だけなら、聞き手にとってはさほどインパクトがないと思いますが、いかがでしょうか。そう感じるのには私だけでしょうか。

次に挙げた事例は、級長の言葉ではありません。班長の言葉です。しかし、リーダーの言動を考える時に参考になると思いますので読んでください。

過去にA男という生徒がいて、班長を務めていました。私の学級の生徒ではありませんでしたが、私の掃除担当場所の生徒でした。彼の班の男子がほうきを振り回して遊んでいたのも、掃除が終わってからその生徒を呼んで指導すると、その間中、A男が一步下がったところにずっと立っています。まるで、A男が指導を受けているかのように。指導が終わってから、彼は私に近づき、こう言いました。

「先生、すみませんでした。何度も注意したのですが、ぜんぜん聞いてくれなくてあきらめていました。でも、彼が遊んでいたのは（班長の）僕の責任です。今度からは、聞いてくれるまで注意します。」

班員のために頭を下げたA男でした。何度も注意するだけでも尊いことなのに、私の手を煩わせた班員に代わって頭を下げたことに、私は感動しました。

班長というと、級長以下班員以上という中途半端なリーダーというイメージがどうしても付きまっていますでしたが、その立場でリーダー性を確実に発揮している生徒がいることをとてもうれしく、そして頼もしく思いました。彼はその後、学級の中リーダーになるまでに成長しました。

リーダーの言葉で最も大切な要素は、長さでもなく回数でもありません。内容です。先に上げたA男の発言は、一つの班の活動の中で発したものでしたが、これこそリーダーとしての自覚が生み出したものだと思えました。私が指導していた生徒は、私の言葉よりA男の発言でかなり反省したようでした。それだけ力があつた発言だったということですよ。

したがって、毎日仲間に向けて話す機会をもらって絞り出すように話しても、必ずしもリーダーとしての発言になるわけではない。私は考えています。どうですか、級長として毎日前に出て話している人たち、「このことを話したい」と強く思って毎日仲間の前に出ていますか。逆に、話したいと思うことがあれば、「今日は私に話をさせてください」と言うべきだと思います。私はそういう話が聞きたいなあ！